

新着資料紹介



地すべりによる倒壊家屋の表札
(621-000001)



写真提供：仁川の自然を考える会
(1200248-000002)

他施設との交流



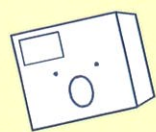
水谷震災資料専門員の発表風景

2025（令和7）年10月27日、神戸大学にて、第15回震災資料の収集・公開に係る情報交換会が開催されました。

今年は阪神・淡路大震災から30年を迎え、情報交換会は、震災30年を経た阪神地域における、資料整理・収集活動、および展示など普及活動の現状と課題をテーマに行われました。

当資料室からも震災資料研究主幹、震災資料専門員らが参加し、水谷震災資料専門員から「資料室の震災資料の収集・保存と展示に関する現状と課題」について報告しました。

神戸大学震災文庫をはじめ他施設の課題や対策等をお伺いでき、非常に勉強になりました。今回の情報交換会を通じて得た知識を今後の資料室の運営に活かすとともに、参加された他施設との連携を深めていきたいと考えています。



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃる。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

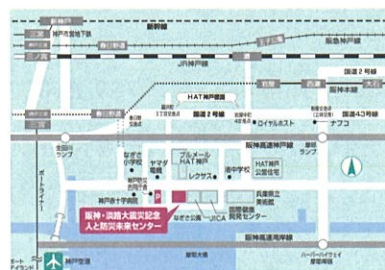
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

URL <https://www.dri.ne.jp/>

開室時間 9:30～17:30

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)

12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

DRI

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute

資料室ニュース



Vol.88

2025年
12月発行

EXPO 2025 大阪・関西万博

ひょうご EXPOウィーク「災害からの創造的復興」にて 震災資料を展示



関西パビリオン



兵庫県ゾーン
こうのとり回廊

震災から30年という節目を迎え、EXPO 2025 大阪・関西万博 関西パビリオン兵庫県ゾーンでは、2025（令和7）年9月15日～18日に、ひょうご EXPOウィーク「災害からの創造的復興」をテーマとして各種展示がなされ、当センターの震災資料も展示されました。

上段：被害の象徴

1995.1.17阪神・淡路大震災による被害を伝える実物資料

左から、

- ・1995.1.17日めくりカレンダー(2600576-000001)
- ・5:46で止まった掛時計(0000329-001002)
- ・全壊家屋の下敷きとなり壊れたアンティークカメラ(3300207-001002)
- ・金庫内で焼けた硬貨(1500632-000001)

中段：世界の方々への感謝

震災からの復興過程においては全国および世界各地からたくさんの方々の支援をいただきました。

左から、

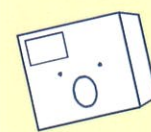
- ・岩手県北上市立上野中学校からいただいた激励の色紙(3300313-001001)
- ・山口高志氏ユニフォーム(3400171-001006)
- ・高橋智氏ユニフォーム(3400171-001007)
- ・追悼の千羽鶴(3201255-003001)

下段：絵本プロジェクト

絵本により、日本国内および世界各地に、防災の知恵を普及し、災害文化の醸成に貢献するプロジェクトによる成果作品。



震災資料展示風景



震災資料の利用をお考えの方に

人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の教訓を後世に伝え、防災に役立ててもらうために、所蔵している震災資料の貸出を行っています。**震災資料を利用したい**とお考えの方は、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

夏休み防災未来学校2025

なりきり！震災資料専門員
～風景から写真撮影現場を推理せよ！～



2025（令和7）年7月21日（月・祝）に小学4～6年生と中学生を対象としたワークショップ「なりきり！震災資料専門員」を開催しました。プログラムでは参加した9名が3グループに分かれ、当時の地図や情報、図書から写真資料の撮影場所を調査しました。

調査結果はワークシートにまとめ、冊子を作成したり資料室で展示したりしました。冊子は資料室で閲覧可能です。（夏休み防災未来学校2025 / 1-Bソウカ 47996）



前号のクイズの正解発表

答え：山陽板宿駅（神戸市須磨区）

当時は地上にホームがありました。震災によって当初予定した地下駅化工事を前倒しして行い、現在の形になりました。

展示紹介

資料室では収集した震災資料を活用して、企画展を開催しています。ここでは現在開催中の展示をご紹介します。

企画展「震災と火」

阪神・淡路大震災では、「火」が多くの人の記憶に深く刻まれました。本展示では「恐れ」「安らぎ」「祈り」の三つの視点から、震災と火の関係を見つめ直します。

焼けたコインや溶けたガラス食器は、長田区を襲った火災の激しさを物語ります。大釜やだるまストーブは、寒さの中で炊き出しに集まり、暖を取って心を寄せ合った温もりの象徴です。「1.17希望の灯」の竹筒や追悼式の写真は、火が祈りの象徴として人々の心を照らしていることを示します。

火は破壊だけでなく、癒しや希望ももたらします。本展示を通じて、震災の記憶と火の多面性に触れ、未来への思いを共有します。



火災の様子[神戸市長田区]
(529-003001-1-5)



炊き出し用大釜セット
(515-001001)

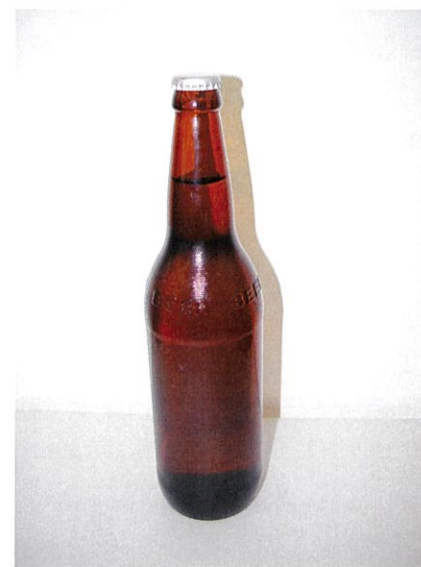


1・17 希望の灯り
(3300206-001006-4-1)

開催期間 2025（令和7）年12月16日（火）～2026（令和8）年5月24日（日）

開催場所 人と防災未来センター西館5階 資料室

震災資料のメッセージ「命の水」



避難所で配られた水詰めビール瓶（439-000001）

阪神・淡路大震災によりライフラインが崩壊した時、被災者を苦しめた様々な困難の一つが水不足でした。基本的な給水でさえ難しくなったその時期、各地から被災地に届けられた支援物資のなかには、「水」もありました。

人と防災未来センター資料室には、誰かの命を支えるために届けられた当時の「水」が、中身が入ったままの状態でも保管されている容器もいくつかあります。命を繋いだ当時の「水」を展示することで、「水」を届けた人々の思いや、平素には当たり前であるライフラインの大切さについて考えていただきたいと思います。

開催期間 2025（令和7）年12月16日（火）～2026（令和8）年5月24日（日）

開催場所 人と防災未来センター西館3階（有料ゾーン）